

特集=生誕200年記念 R.ワーグナー& J.ヴェルディ 特別企画=V.ホロヴィッツ

音楽現代

The Orchestral

Vol.43

March

クラシック音楽誌

特集 生誕200年記念

リヒャルト・ワーグナー & ジュゼッペ・ヴェルディ

～2大オペラ作曲家の生涯と芸術

特別企画

ウラディミール・ ホロヴィッツ

～生誕110年、奇才の知られざる側面

インタビュー

マルティン・ファン・デン・ブック、永井公美子、
有稀・マヌエラ・ヤンケ、他

カラー口絵

テオレマン指揮ドレスデン・シュターツカペレ「ローエングリン」

あらかわパイロイト「ラインの黄金」

トナカイサロンオペラ「カプレーティとモンテッキ」

11月23・24・25日、東京・サンパール荒川 大ホール
 写真——長澤直子（文は132ページ）

W.Wagner "Das Rhingold"

A公演 第3場

左からヴォータン（米谷毅彦）、ローグ（羽山晃生）、ミーメ（升島唯博）、ダンサー（コンドルズ）、後ろ=アルペリッヒ（田辺とおる）



●スタッフ

音楽監督・指揮：クリスティアン・ハンマー
 演出：山賀博之 オペラ監督：田辺とおる

●キャスト

田辺とおる・小畑朱美・木川田澄・小貴岩夫
 羽山晃生・米谷毅彦・杉野正隆・他

●

管弦楽：TIAAフィルハーモニー管弦楽団
 振付：近藤良平 ダンサー：コンドルズ

オペラ劇場 あらかわバイロイト
 ガイナックス×コンドルズ×ワーグナー
 ワーグナー作曲 舞台祝祭劇「ニーベルングの指輪」序夜「ラインの黄金」



C公演 第2場 左から、フロー（阿部祐介）、ドンナー（田中拓風）、フリッカ（仲野瑠子）、ヴォータン（藤村大城）、ローグ（升島唯博）、ファースルト（木川田澄）、フライア（鶴田朋子）、ファフナー（松中哲平）



D公演 第1場 前左から、ヴォークリンデ（松村萌子）、アルペリッヒ（田辺とおる）、ヴェルグンデ（東裕子）、後ろ=フロスヒルデ（田代香澄）



A公演 カーテンコール 中央=山賀博之（演出）、後列左より、ドンナー（五島佑明）、ダンサー（コンドルズ）、エルダ（杉野麻美）、ダンサー（コンドルズ）、フリッカ（小畑朱美）、指揮（クリスティアン・ハンマー）、ヴォータン（米谷毅彦）、ダンサー（コンドルズ）



B公演 第2場前の同奏曲 ダンサー（コンドルズ）

photo by Naoko NAGASAWA

オペラ劇場あらかわバイロイト
第4回ワグナー音楽祭

「ラインの黄金」(写真はカラー頁)

あらかわバイロイトのリングも遂に3作目。前回の「黄昏」に引き続き、今回は最初に還り序夜「ラインの黄金」が上演された。別配役による23日から25日までの4公演。オペラ監督田辺とおるがアルベリッヒを2公演務めたが、やはりこういう性格的な役は抜群に上手い。オケはT I A A フィルで音楽総監督クリスチャン・ハンマーが3回、佐々木修が1回指揮した。さらにアニメ「エヴァンゲリオン」で有名なあのガイナックスの山賀博之がオペラ界に進出し、演出と翻訳を務めるということで「あらかわの黄金」は事前に各方面から大きな注目が集まっていたのである。

まず前奏曲からコンドルズのダンスがあり水の精を表現しているようにも思われたが、何と云っても舞台上方に設置された直径7メートルの「リング」がユニーク。普段は何の変哲もないただの白い布のスクリーンだが、ここに様々な映像が投射され、何と字幕までここに映し出された。ことにライ

ンの乙女たちの場面では映し出される台詞が水中をアプクが浮かび上がっていくようにも見え、全てがここから生み出される一種のタイムトンネルのようなイメージ。アルベリッヒが隠れ頭巾で変身する大蛇やカエルは頭上の「リング」にお手のもののアニメが投影された。山賀はこれが初のオペラ演出ということだったが、これほどキヤラの立つ演出はなかった。ことにローゲは元々アニメ調キャラクターのせいか存在感があり、唯一ヴォータンとアルベリッヒが直接対決を行うだけに直截的で暗さのまだ少ない「黄金」に相応しいフレッシュで楽しい演出。ハンマーの薫陶よろしきを得たT I A A フィルの音が凄みと重厚さをグンと増したことも相まって、今までの公演とは段違いの出来。田辺をはじめ歌手陣も大健闘で、佐々木の回もハンマーにおさおさ引けを取らぬ要素所を締めた的確な指揮ぶりが光った。終演後ただの白い布に戻ったリングを見ると夢から覚めたように感じられた。(11月23&24日、サンパール荒川)(音楽現代2月号より再掲載)(浅岡弘和)